

令和元年度

教育委員会点検評価報告書
(平成30年度対象)

令和元年9月

大鰐町教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	点検・評価の対象及び方法	1
III	評価委員	1
IV	評価委員会	1
V	平成30年度 大鰐町の教育	1
1	大鰐町が目指す町の姿	
2	大鰐町教育委員会の基本方針	
3	平成30年度 大鰐町教育方針体系図	
VI	教育委員会の活動状況	3
1-1	教育委員の構成（平成30年4月1日現在）	
1-2	教育委員の構成（平成31年3月31日現在）	
2	教育委員会会議の開催状況	
3	教育委員の行事等参加状況	
VII	主要施策の点検・評価	7
1	学校教育の推進	
2	社会教育の推進	
3	芸術文化の振興と文化財の保護活用	
4	生涯スポーツの振興	
VIII	平成30年度 主な事業と経費及び成果等	19
IX	評価委員による点検・評価	23

I 点検・評価の概要

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、教育委員会は、毎年その権限に属する教育行政事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されております。

この法律の規定により、大鰐町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たしていくために教育に関する点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

II 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、前年度に管理及び執行した事務のうち大鰐町主要施策に基づく重点の事務事業を教育委員会が自己評価しました。

- A…達成している
- B…ほぼ達成している
- C…やや達成していない
- D…達成していない

III 評価委員

- ・藤 田 昇 治（元弘前大学生涯学習教育研究センター
兼大学院地域社会研究科准教授）
- ・笹 田 和 夫（元中学校校長）

IV 評価委員会

- ① 令和元年7月26日（金）
- ② 令和元年8月 8日（木）

V 平成30年度 大鰐町教育

平成30年度 大鰐町教育

1 大鰐町が目指す町の姿

湯の郷・雪の郷・りんごの郷 おおわに

- ① 美しく・潤いのあるまちを創る
- ② にぎわいと住みやすさのあるまちを創る
- ③ 活力と夢を育むまちを創る
- ④ 豊かな心と学びのまちを創る
- ⑤ 健やかで笑顔のあるまちを創る
- ⑥ みんなで築くまちを創る

（第5次大鰐町総合振興計画）

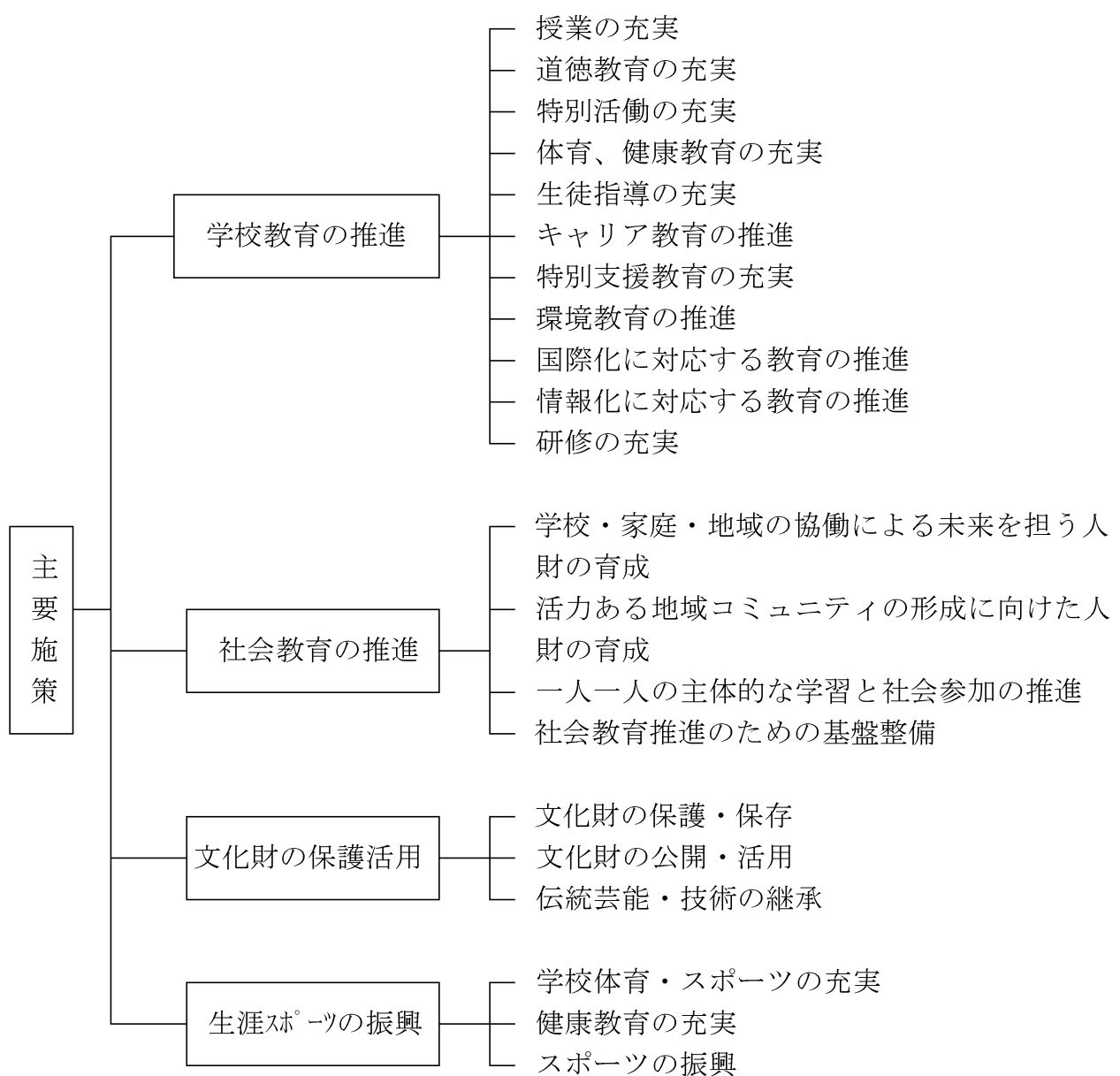
2 大鰐町教育委員会の基本方針

大鰐町教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら、町を育てる学力、町に生かせる学力を育てていきます。

大鰐町の未来を創る人財の育成

一人一人が学び、郷土を愛する、心豊かで
たくましい人づくり

3 平成30年度大鰐町教育方針体系図



VI 教育委員会の活動状況

1-1 教育委員の構成（平成30年4月1日現在）

役 職 名	氏 名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備 考
教 育 長	木 田 専 一		H28.10.29 ~H31.10.28	H28.10.29 新教育委員会制度 による教育長就任
教 育 長 職務代理者	成 田 信 一 郎	H27.12.18 ~H31.12.17		H28.11.7 教育長職務代理者就任
委 員	小 西 祐	H28.10.29 ~H32.10.28		H20.10.29 就任
委 員	貴 田 範 子	H27.7.13 ~H30.7.12		H23.7.13 就任
委 員	山 口 裕 子	H29.12.25 ~H33.12.24		H29.12.25 就任

1-2 教育委員の構成（平成31年3月31日現在）

役 職 名	氏 名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備 考
教 育 長	木 田 専 一		H28.10.29 ~H31.10.28	H28.10.29 新教育委員会制度 による教育長就任
教 育 長 職務代理者	成 田 信 一 郎	H27.12.18 ~H31.12.17		H28.11.7 教育長職務代理者就任
委 員	小 西 祐	H28.10.29 ~H32.10.28		H20.10.29 就任
委 員	貴 田 範 子	H30.7.13 ~H34.7.12		H23.7.13 就任
委 員	山 口 裕 子	H29.12.25 ~H33.12.24		H29.12.25 就任

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会議」を開催している。また、必要に応じて臨時会を開催し、平成30年度の定例会は12回、臨時会の開催はなかった。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条及び「大鰐町教育委員会会議規則」の規定に基づき、平成30年度は以下の案件について審議及び報告事項による確認を行なった。なお、定例会では教育長に関わる業務内容を毎回報告し、教育委員間で認識の共有化に努めている。

開催日	件名
第1回 定例会 4月9日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成30年度大鰐町教育委員会事務局職員名簿について 報告事項3 大鰐町スポーツ推進委員名簿について 報告事項4 平成30年度教育関係主な事業と経費について
第2回 定例会 5月7日	報告事項1 業務報告 議案第1号 学校評議員の委嘱について 議案第2号 学校医及び学校薬剤師の委嘱について 議案第3号 大鰐町教育支援委員会委員の委嘱について 議案第4号 「大鰐町の教育」について
第3回 定例会 6月1日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部を改正する要綱 議案第5号 大鰐町社会教育委員の委嘱について 議案第6号 大鰐町公民館審議会委員の委嘱について 議案第7号 大鰐町文化財審議委員の委嘱について
第4回 定例会 7月6日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部を改正する要綱について 報告事項3 夏季休業中の町内小中学校の閉庁について 議案第8号 大鰐町点検評価委員の委嘱について 議案第9号 大鰐町スポーツ推進委員の委嘱について
第5回 定例会 8月6日	報告事項1 業務報告 議案第10号 平成31年度使用中学校用道徳科教科用図書採択について 議案第11号 大鰐町多目的広場設置条例の施行期日を定める規則の制定について 議案第12号 大鰐町多目的広場管理運営規則の制定について

開催日	件名
第 6 回 定例会 9 月 3 日	報告事項 1 業務報告 報告事項 2 平成 3 0 年度教育委員会点検評価報告書（平成 2 9 年度分）
第 7 回 定例会 1 0 月 9 日	報告事項 1 業務報告 報告事項 2 大鰐町社会教育委員役員について 報告事項 3 大鰐町公民館運営審議会委員役員について
第 8 回 定例会 1 1 月 6 日	報告事項 1 業務報告 報告事項 2 頭風発生について 報告事項 3 児童館行きバス送迎について
第 9 回 定例会 1 2 月 3 日	報告事項 1 業務報告 報告事項 2 頭風発生について 議案第 1 3 号 大鰐町学校給食センター管理運営規則の一部改正について
第 1 0 回 定例会 1 月 9 日	報告事項 1 業務報告 報告事項 2 大鰐町通学路安全対策推進協議会設置要綱の一部を改正する要綱について 議案第 1 4 号 大鰐町立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則案
第 1 1 回 定例会 2 月 7 日	報告事項 1 業務報告 報告事項 2 寄附採納について 報告事項 3 平成 3 0 年度青森県学習状況調査結果 （大鰐小学校第 5 学年）（大鰐中学校第 2 学年） 議案第 1 5 号 大鰐町学校給食運営審議会委員の委嘱について
第 1 2 回 定例会 3 月 4 日	報告事項 1 業務報告 議案第 1 6 号 平成 3 0 年度学校教育活動表彰被表彰者の選考について 議案第 1 7 号 平成 3 0 年度スポーツ賞・スポーツ奨励賞表彰被表彰者の選考について 議案第 1 8 号 平成 3 0 年度退職教職員表彰被表彰者の選考について

3 教育委員の行事等参加状況

教育委員会は、教育委員会会議のほか、学校行事及び研修会等に参加している。

期 日	行事・研修会等	場 所	参加委員
平成30年 4月 4日	南地方市町村教育委員会連絡協議会	黒石市	全委員
4月 7日	大鰐町立大鰐小学校及び大鰐中学校入学式	各学校	全委員
5月 9日	大鰐町教職員全員研修会	大鰐中学校	全委員
5月20日	大鰐小学校運動会	大鰐小学校	全委員
5月25日	大鰐中学校運動会	大鰐中学校	全委員
5月25日	青森県市町村教育委員会連絡協議会定時総会・研修会	青森市	全委員
6月26日	前期学校訪問（大鰐小学校・大鰐中学校）	各学校	全委員
7月 9日	社会を明るくする運動	大鰐中学校	全委員
8月11日	大鰐町成人式	中央公民館	全委員
9月28日	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会	平川市	全委員
10月31日	後期学校訪問（大鰐小学校・大鰐中学校）	各学校	全委員
平成31年 2月20日	大鰐小学校スキー大会	大鰐温泉 スキー場	全委員
2月28日	大鰐町総合教育会議	中央公民館	全委員
3月13日	大鰐中学校卒業式	大鰐中学校	全委員
3月20日	大鰐小学校卒業式	大鰐小学校	全委員
3月27日	大鰐町教育委員会顕彰式	中央公民館	全委員

VII 主要施策の点検・評価

1 学校教育の推進

主 要 施 策	目 的 等	成果・課題等	評価
(1)授業の充実	一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。	【小学校】 既成事項の確認・反復練習・振り返りの活動、更には、休み明けテストを実施するなどして、基礎的・基本的内容の定着を図った。結果、C R Tテストにおいては、どの学年も総じて全国平均を上回る結果となった。 課題として、学力の二極化があげられる。今後、特に下位児童の学力の底上げを図ることが急務である。より児童の実態把握に努め個に応じた指導が求められる。	A
		【中学校】 確かな学力を身に付けることが、大鰐中学校の学校課題の一つであると捉え、今までも実践してきたが、平成30年度は学力の中でも「基礎的な知識及び技能」を重点とし、学習課題の明示、分かりやすいまとめの工夫、効果的な学習形態（協働学習）を取り入れた授業実践に取り組んだ。また、前期教育委員会訪問で指摘された授業の構造化を意識して、統一した「学習課題」と「まとめ」のシートを全教職員が使うようにした。その結果として、30年8月実施の青森県学習状況調査（2年生で実施）では、2教科で県の通過率を4%ずつ上回った。	B
(2)道徳教育の充実	一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持つことができるよう、全教育活動を通じて道徳性の育成に努める。	【小学校】 日々の生活に生かされ実践にも結びつくような体験的な道徳教育を重視し、道徳的価値への共感を深める指導を心掛けた。また、自他を尊重する態度を育て、居場所づくりと絆づくりに努めた。結果、長期に休む児童は今年度はいなかった。 今後は、今以上に道徳的価値を自分との関わりで多面的に考	A

		えることができるよう、発達段階を考慮した指導法の工夫に努める必要がある。 【中学校】 特別の教科「道徳」への移行を踏まえ、平成28年度は別葉を作成し、29年度は試行しながら修正と再整理を行ってきた。30年度は評価（通信表や指導要録への記載）をどうするか検討しながら、授業を35時間以上きちんと行い、「考え、議論する」道徳科に向けての準備を進めた。	A
(3) 特別活動の充実	一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。	【小学校】 クラブ活動においては、異学年交流や縦割り活動の場として位置付け、高学年児童がリーダーシップを発揮できるように工夫した。また、外部講師を活用したり地域の伝統文化を取り入れ児童の意欲につなげた。 自治的な児童会活動においては、更に、児童自らが学校生活の諸問題に気付き、解決できるよう、自発的自治的な活動の指導支援に努めていく必要がある。 【中学校】 特別活動主任が、2学期から学年末まで病気のため学校を休んだ。そのため前年度のように、コミュニケーション能力や社会的スキルを身に付けさせるための学級活動を、全校規模で企画実施できなかった。ただし、生徒会活動や生徒会行事では、「自分たちでやりきった」という思いを生徒に持たせるために、教員が「生徒主体」を強く意識して、準備から本番まで生徒指導の三機能を生かして取り組ませるよう心掛けて実践してきた。	A B

(4) 体育、健康教育の充実	一人一人の子どもが、生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。	【小学校】 個に応じた学習課題の設定、マラソンカード、縄跳びカードの活用により、一人一人に運動の楽しさや喜びを味わわせるように工夫したところ、児童は意欲的に体を動かすようになった。 また、高学年が弘前大学と共同で健康教育に取り組み、健康に対する意識を高めることができた。今後は、全学年に健康教育を教育課程に位置付けていく必要がある。 【中学校】 体育実技では、進んで運動に参加し健康な学校生活を営めるよう、多様な運動を系統的に体験させ、体を動かすことの習慣化を図るよう努めた。また、健康と安全のために保健分野の指導もしっかりと行った。さらに、食育に関しては、栄養教諭の立てた計画に沿って、家庭科と連携して取り組んだ。残念ながら、管理下外で大きな事故があったが、通学時の交通事故は1件（昨年度4件）に減った。なお、厳密には教育課程外であるが、駅伝の男女優勝をはじめとして運動部活動の成績が向上した。	A B
(5) 生徒指導の充実	一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。	【小学校】 今年度も学校環境適応感尺度（アセス）を年2回実施し児童の日頃の学級における見取りを行い、教師が児童への関わり方を意識して生徒指導に取り組んだ。 また、問題行動については全教職員で共通理解をし早期発見・早期対応を心掛けた結果、全校的に比較的落ち着いた生活ぶりであった。 今後も些細と思われる事案、疑わしいと思われる事案については初期対応等について記録を残し、活用する管理体制の構築を図る必要がある。	A

		【中学校】 不登校傾向の生徒は、1年生に2人（転校した1人は含んでいない）、3年生に3人いる。1人の3年生の親は本校のスクールカウンセラーと定期的に面談している。2学期から教育支援員を1人増員していただいたお陰で、登校時間が定まっていない別室登校の生徒（1年生2人と3年生1人）に対して、手厚い対応ができた。また、3件のいじめを認知したが、いずれも1学期であり、2学期以降はいじめを認知していない。いじめの未然防止及び早期対応に努めてきたことによると思う。さらには、昨年度から2年続いて、親のクレジットカードの不正使用があった。他の人のパソコンやスマートフォンが使われる危険性もあり、保護者にも注意を呼び掛けていかなければならない。	A
(6) キャリア教育の推進	一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力の育成に努める。	【小学校】 キャリア教育の全体計画を作成し、特に所属する集団やみんなのために働く経験や日常の積み重ねを重視し、働くことの大切さや意義を考えさせるようにしたところ、目的を持って意欲的に学ぶ姿勢を身に付けさせることができた。 また、OH！！鰐元気隊キッズの活動を継続しており、キャリア教育の柱として今後も続けていきたい。	B
		【中学校】 日常的に汎用的能力の育成に心掛けているが、特に学級活動や総合的な学習の時間での進路学習と、2年生の「職場体験学習」を関連させることで、キャリアプランニング能力を高め、進路実現に向けて努力する態度を育成することに努めた。なお、昨年度までは1年生で「ふるさと学習」を行っていたが、小学校での内容と重複するということで、今年度は大鰐町にある福	B

		祉施設を活用した「福祉体験学習」を行った。	
(7) 特別支援教育の充実	発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。	【小学校】 一人一人の児童を生かし、可能性を最大限に伸ばすという視点に立って、個別の指導計画の作成と活用に努めた。 また、教育相談の充実に努め、気になる児童・保護者との面談を重ねるようにした。その結果信頼関係を築くことができ、特別支援教育についての理解を深めることにつながった。 今後も、家庭との緊密な連携のもとに支援していく体制を堅持していきたい。	A
		【中学校】 小学校と情報交換をよく行い、保護者との連携を図りながら、指導や支援に努めた。特別支援学級に在籍する生徒については、個別の指導計画と教育支援計画を、通常の学級に在籍する発達障害の傾向がある生徒についても、個別の指導計画を作成している。平成29年度の反省から30年度は、年度はじめと長期休業中に、全教員で個別の指導計画の見直しと確認を行い、学校評価も向上した。また、小学校の特別支援学級との合同学習も毎年行っている。	A
(8) 環境教育の推進	一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。	【小学校】 今年度もまた、学校と家庭、地域社会が連携しながら資源回収の活動や学区の清掃活動を行い、環境に対する意識を高める取組を行った。2回目の資源回収では雑紙回収も行い、環境に対する意識を全校児童で高めることができた。 今後は、更に身近な自然や社会環境に触れることができるよう、直接的、具体的な体験活動を積極的に取り入れていきたい。	B
		【中学校】 郷土を愛する気持ちを育てるために町と連携して、新入生に	

		よるつつじ植樹を入学記念として行っている。この行事は５０年以上の歴史がある。また、生徒による清掃活動も年々丁寧に行われるようになってきた。特に教室環境では、どの学級にも生徒の作品が掲示されており、ロッカーの中もほとんどが整然としている。本校の現状に合った環境教育に取り組んでいる。	B
(9) 国際化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。	【小学校】 外国人とコミュニケーションできる基礎的な能力や態度の育成を図ったり、体験的に異文化に触れさせるために、町の A E T や県の国際交流員を積極的に活用し、外国語の授業や外国語活動に取り組んだ。児童も意欲的に取り組んでいる。 次年度最後の移行期間となるため、先を見通した研修を深めていく必要がある。	A
		【中学校】 校内に常勤の A E T がいる恵まれた環境にあり、生徒は英語の授業時間はもちろん、昼休み休憩室での交流や総合文化部の活動などで日常的に A E T と交流することができる。現 A E T は令和元年度も大鰐町にということなので、この恵まれた環境を生かしながら、国際理解教育を推進していきたい。	B
(10) 情報化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルにかかわる指導の充実を図り、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。	【小学校】 I C T 機器の活用に対し教職員が共通理解をし、積極的かつ柔軟に取り組んでいた。児童の興味関心を高めるためには有効であった。 最近の児童を取り巻く情報化に鑑み、特に情報モラルに関する指導については、家庭や地域社会と連携した取り組みをしていく必要がある。	B
		【中学校】 平成３０年度に技術科の教員が赴任し、技術科の授業でパソコンを活用する I C T 教育に取り組んでいる。今後は、I C T	B

		機器の整備や更新が課題である。また、スマホ等の利用による生徒指導上の問題点が懸念されるので、外部講師を招いて1年生（東奥日報に掲載）と2年生（2年生は参観日に親子で）を対象に、情報リテラシーや情報モラルに関する指導を行った。	
(11) 研修の充実	教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。	【小学校】 教員個々が、自らの成長段階、職責、経験及び適正に応じて、更に高度な段階を目指すよう日々研修に力を注いだ。校内研修においては各人年一回の授業公開では、ワークショップ型の協議会において、活発な研究協議が行われた。職員の研修に対する意識は高まっている。 今後も校内研修の目的や内容を明確にし、共通理解を図った上で、効率的かつ全員参加型の研修体制を目指していく必要がある。	A
		【中学校】 平成29年度までは、青森県教育委員会から指定された「思いやりを育む安心できる学校づくり実践事業」を形にするために様々な研修に努めていたので、30年度は一段落した感があったことは否めない。ただし、研究主題及び副題に沿った授業を、英語科による要請訪問をはじめ全教員が指導案を作成して行った。また、中教研の音楽の研究授業も本校を会場に行った。さらには、町教研では小中連携について、小中一貫教育に取り組んでいる石川中の松山校長を講師に、先進校に学んだ。そして、年一回は校外での研修を積極的に受けるよう毎年奨励している。	A

2 社会教育の推進

主要施策	目 的 等	成果・課題等	評価
(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	青少年の体験的活動の充実	ふるさと子ども教室において、学校教育での実施が難しいねふた教室を地域の方を講師に迎え実施し、体験活動の充実を図った。 現段階で実施されている体験活動がねふた笛教室のみであり、マンネリ化が進んでいるため大鰐町の特徴を生かしながら体験活動ができる新規事業を考えていきたい。	B
	地域が支えるキャリア教育の充実	県の事業である「地域のお宝物語」の実行委員として大鰐町の高校生14名が参加し、地域の魅力を発信できる人材の育成に努めることができた。 2年間の活動により、今後高校生が自分たちの地域への愛着をもち、大鰐町の社会教育に対して協力してもらえるように活動を充実させていきたい。	A
	子どもの読書活動の充実	導入された図書管理システムにより、小中学校においては児童生徒の読書状況の確認や読みたい図書を容易に探すことが可能となり、読書活動の充実につながっている。 また、公民館図書においても、今までは年度末にまとめて購入していたが全国的によく読まれている本や要望のあった本をその都度購入し、利用者の読書意欲の向上に努めた。	A
	地域全体で子どもを育む活動の充実	地域の方を講師としての小中学校での俳句出前教室や、生け花・グラウンドゴルフなど町内の団体による小学校のクラブ活動での指導を行った。 また、小学校の登下校時間に合わせた通学指導員の配置や大鰐町青少年健全育成連絡協議会による駅前民間交番「わにっこ安心ステーション」の運営により、地域全体で子どもを見守っている。 いずれも若い後継者の育成が課題となっている。	B

	家庭教育支援の充実	放課後の子どもの居場所として放課後子ども教室を実施し、家庭教育支援を行っている。サポーターは県主催の研修会等に参加し、より良い家庭教育支援ができる体制づくりにも力を入れている。 また、家庭教育の大切さを理解してもらい、活かしてもらおうと家庭教育講座を実施した。多くの保護者の方に参加してもらえよう講師や内容について検討していく必要がある。	A
(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人材の育成	地域活動の実践者の育成	大鰐町生涯学習推進会議により地域活動実践者のネットワークを構築し、大鰐町の生涯学習についての方向性を確認し、活力ある地域コミュニティ形成につなげられるように努めた。今後は、人材バンクの整備やホームページを活用した生涯学習の推進が必要となってくる。 また、「スキーの町大鰐」であり続けるためにスキー大会でのボランティアの世代交代が必要であり、関係機関と協力連携しながら後継者を育成していきたい。	A
	地域活動の指導者、コーディネーターの養成	地域活動を行っている団体の代表者や個人からの相談を受け、地域イベント等に対する協力を行い、地域活動指導者の育成につなげることができた。具体的に地域コーディネーターの養成はできていないが、今後積極的な活動を行う団体や個人を支援、コーディネーター養成講座等の周知を行っていききたい。	B
	地域活動に関わる人材のネットワーク形成の支援	平成29年度に引き続き、可能な限り地域住民の講師活用を行った。新たな人材育成を図っていることから人材バンクの整備を含めた、ネットワークの構築と拡大に努めたい。	B
(3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	関係機関との連携による多様な学習活動の支援	成人大学・ふるさと子ども教室・放課後子ども教室・俳句教室等において役場や町内の機関からの協力を得て講師派遣等の支援を受けた。 学習支援の体制づくりと共に学	B

		習内容について町民の要望等に応じながら多様な学習活動ができるように機会を設けていきたい。	
	学習成果を生かした社会参加活動の支援	成人大学では、俳句やグラウンドゴルフを体験してもらい、俳句大会やニューススポーツフェスティバルへの参加につなげることができた。 学習成果を発揮できる場を町内に限らず探し、周知等できるよう近隣市町村の情報まで視野を広げていきたい。	A
(4) 社会教育推進のための基盤整備	社会教育推進体制の充実	町社会教育行政の方針と重点に基づき事業を展開するとともに、社会教育委員や参加者の意見をいただき事業内容の見直しを図ってきた。 また、点検評価委員会からの評価や指摘事項に基づき、即対応・改善を図っていく体制づくりもしていきたい。	B
	社会教育施設の機能の充実と活用の促進	図書管理システムの導入から3年が経過し図書室利用者の増加はもちろん、県立図書館との相互貸借により多くの図書に触れることができる体制が作られている。 公民館の利用についても、役場各課の事業開催、子どもたちの関係するスポーツ団体、楽器練習やヨガなど多くの利用がされている。	A
	社会教育関係職員の養成と資質の向上	社会教育関係事業に関する各種会議や研修会に積極的に職員派遣を行った。 町職員の社会教育主事資格所持者の定年退職や配置換えにより、現役の社会教育主事が減少している。令和元年、2年と社会教育主事講習が弘前大学で行われるため、計画的な社会教育主事の養成に努めたい。	B
	社会教育関係団体等の活動の支援	各社会教育団体への補助金の支給や団体活動への職員の参加など団体活動の支援を行い、活動の支援に努めた。 今後も継続的に社会教育団体を支援していきたい。	A

3 文化財の保護活用

主 要 施 策	目 的 等	成果・課題等	評価
(1) 文化財の保護・保存	かけがえのない文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。	大鰐町の文化財を保護し、次代へ伝えることを目的として、町指定文化財である三ツ目内板碑東屋が雪により倒壊したので、それを解体し、板碑を固定する工事を行った。 今後も国・県・町の種別に関わらず、次代に残すべき大切なものを積極的に登録していきたい。	A
(2) 文化財の公開・活用	町民が文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。	町で唯一の県指定文化財である「三ツ目内獅子（熊）踊」の知名度を高めることと、技を磨くために各所において行われるイベント等への出演紹介を行った。 今後も積極的に公開の場の開拓や補助金等の活動支援をしていきたい。	B
(3) 伝統芸能・技術の継承	地域で育まれ、保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。	小学校での獅子踊り公開の場を設けることによって、興味を持った児童が踊りを習い、継承者になりうる可能性を示した。 今後は、町外における伝統芸能技術の継承の仕方を参考にしながら本町の継承にも生かしていきたい。	A

4 生涯スポーツの振興

主要施策	目 的 等	成果・課題等	評価
(1) 学校体育・スポーツの充実	児童・生徒が、自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、健康保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校体育・スポーツの充実に努める。	地域の特色であるアルペン・クロスカントリースキーについて、楽しく親しみを持てるよう学校での指導者や町内居住の小中学生を対象としてスキーリフト無料券を配布することにより児童生徒の体育・健康教育の振興を図ることができたが、今後は現在授業以外でスキーをやっていない児童・生徒に対して興味を持ってもらえる工夫を行う必要がある。	B
(2) 健康教育の充実	児童・生徒が心身ともに健康で安全な生活について理解し実践できるよう、学校、家庭、地域社会の連携を図り、学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育に努める。	町給食センター栄養士及び学校担当教諭が連携し、地元の食材や特産品を使用しながら、地産地消の食育活動を行うことができた。 食材やメニューの工夫を行い、地元の食材をより多く活用し、児童・生徒の地元へ興味を高めつつ、食物アレルギー対応など、安全な給食の確保をより一層図って行きたい。	B
(3) スポーツの振興	町民が生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるよう、スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりの充実に努め、スポーツの推進に努める。	スキー競技については、H26 年度から H28 年度にかけて全国大会を開催し、環境が整っているため継続してこの環境を維持していくことが重要である。 また、虹貝多目的広場をどのように利用してスポーツ振興に利用できるかを考えることが必要である。	B

Ⅷ 平成30年度 主な事業と経費及び成果等

区 分 事業名	決算額 (千円)	事 業 内 容	成 果 等																
部活動補助金	4,170	大鰐小・中学校における部活動等の充実及び発展を図るため、児童生徒が選手として対外競技会等に参加するための費用を補助をするほか、必要に応じて備品購入に係る費用を補助している。 <table><tr><td>大鰐小</td><td>2,548,000円</td></tr><tr><td>大鰐中</td><td>1,622,000円</td></tr><tr><td>計</td><td>4,170,000円</td></tr></table>	大鰐小	2,548,000円	大鰐中	1,622,000円	計	4,170,000円	大鰐小学校では、陸上部、マーチングバンド部、スキー部が全国大会への出場を果たし、練習の成果を発揮することができた。 また、大鰐中学校では、昨年度に引き続きスキー部が全国大会に出場し、上位の成績を残すことができた。 全国大会では、トップレベルの競技を体感することにより、向上心の醸成と技術の向上が図れ、他県の児童生徒との交流など、貴重な体験をさせることができた。										
大鰐小	2,548,000円																		
大鰐中	1,622,000円																		
計	4,170,000円																		
生きる力育成事業	1,243	「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」などの「生きる力」を育むために、決められた予算内において学校長の裁量で自由に予算を執行できる。 <table><tr><td>大鰐小</td><td>745,000円</td></tr><tr><td>大鰐中</td><td>498,000円</td></tr><tr><td>計</td><td>1,243,000円</td></tr></table>	大鰐小	745,000円	大鰐中	498,000円	計	1,243,000円	小学校においては、地域の伝統文化を含む郷土学習や家庭学習の習慣化に取組み基礎学力の定着に効果を発揮した。 中学校においては、受験対策の教材を効果的に使い、学力向上が図られた。										
大鰐小	745,000円																		
大鰐中	498,000円																		
計	1,243,000円																		
A E T招致事業	4,572	【平成30年度実績】 <table><tr><td>人件費</td><td>3,682,192円</td></tr><tr><td>旅 費</td><td>350,353円</td></tr><tr><td>需用費</td><td>94,556円</td></tr><tr><td>役務費</td><td>63,807円</td></tr><tr><td>委託料</td><td>59,400円</td></tr><tr><td>住宅借上</td><td>78,809円</td></tr><tr><td>負担金</td><td>243,103円</td></tr><tr><td>計</td><td>4,572,220円</td></tr></table>	人件費	3,682,192円	旅 費	350,353円	需用費	94,556円	役務費	63,807円	委託料	59,400円	住宅借上	78,809円	負担金	243,103円	計	4,572,220円	中学校にA E Tを配置することによって、生きた英語を体験することができ、毎年参加しているスピーチコンテストでは上位の成績を収めている。 また、小学校の外国語活動の授業にも派遣し、中学校入学後の英語教科にギャップなく取り組んでいる。
人件費	3,682,192円																		
旅 費	350,353円																		
需用費	94,556円																		
役務費	63,807円																		
委託料	59,400円																		
住宅借上	78,809円																		
負担金	243,103円																		
計	4,572,220円																		

スクールバス運行事業	13,700	長小方面 8,302,219円 二小方面 2,897,208円 駒木方面 2,500,632円 計 13,700,059円	遠方から通学する児童のためスクールバスを運行し、児童の安全な登下校を確保することができた。
小学校改修事業	478	地下油タンク油面計取替工事 478,440円	学校施設・設備等の改修工事等を実施することにより、適切な教育環境の維持管理が図られた。
中学校改修事業	1,868	北側フェンス改修工事 1,868,400円	
小学校扶助費	6,408	就学援助費・特別支援就学奨励費 学用品費等 1,594,675円 給食費 2,157,260円 遠距離通学費 2,655,960円 計 6,407,895円	【就学援助費・特別支援就学奨励費】 経済的理由により、就学困難な児童生徒の保護者及び特別支援学級で学ぶ児童生徒の保護者等に対して、教育を受けるうえで必要な学用品費や学校給食費の扶助をしたことにより、義務教育の円滑な実施がなされた。
中学校扶助費	3,814	就学援助費・特別支援就学奨励費 学用品費等 2,159,201円 給食費 1,058,700円 遠距離通学費 596,280円 計 3,814,181円	◇扶助対象者 小学生 45名 中学生 24名 【遠距離通学費】 遠距離地域から通学する児童生徒の保護者に対して、通学費の全額又は一部を扶助したことにより、保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な実施がなされた。 ◇扶助対象者 小学生 55名 中学生 15名
生涯学習推進事業	297	生涯学習だより・成人大学・ふるさと子ども教室・成人式等各種事業の実施	社会の変化やライフステージに即した事業及び子どもたちが地域文化に触れる機会を設けた事業を展開し、町民一人一人が主体的に学ぶ学習機会の提供を行った。
俳句の街づくり推進事業	216	大鰐温泉俳句の街づくり実行委員会補助金	大鰐町名誉町民第1号である増田手古奈氏の功績を称え、俳句大会を実施した。つつじ祭りと同時期に開

			催し、県内外からの投句も多く、町観光の一翼を担っている。
生涯スポーツ推進事業	426	生涯スポーツ推進・普及のため、スポーツ推進委員を各種大会への派遣し指導を行った。	スポーツ推進委員が主体となって開催するニューススポーツフェスティバルは、初めて虹貝多目的広場を使用して行ったが、天候に恵まれたため、56名と多い参加人数となった。 ただし、例年と違う場所で行ったため戸惑う場面が多々あったため、工夫をする必要がある。
図書購入事業	491	公民館図書室用図書購入	流行の本や推薦図書をその都度購入し、読書意欲の向上に努めることや、児童誌、生活関連雑誌を購入し町民の図書室利用に供することができた。
公民館改修事業	831	中央公民館昇降機改修作業他	中央公民館昇降機改修作業や3, 4階男子小便器送水ポンプ不良交換修繕等を行い、施設を利用する方の安心安全を確保することができた。
放課後子ども教室推進事業	1, 285	放課後子ども対策事業教育支援サポーター、コーディネーター謝金等	中央公民館、旧第二小学校で実施し、平成25年度より中央公民館教室では休館日である月曜日も開催。 (年度途中から旧二小教室は廃止) 放課後における子どもの安全・安心な居場所づくりと有益な余暇活動のための放課後子ども教室を開催することができた。
各体育団体補助金	2, 972	町体育協会 2, 200, 000円 県民駅伝競走大会 480, 000円 各種スキー大会 292, 000円 計 2, 972, 000円	町の特色であるスキー競技の大会や各種スポーツ団体が所属している体育協会、県民駅伝競走大会実行委員会への補助を行い、競技スポーツ振興の一翼を担っている。

スキー大会用施設整備事業	2,543	クロスカントリーコース整備 740,000円 クロスカントリー競技用機器 <u>1,802,790円</u> 計 2,542,790円	スキー大会を運営していく上で必要な備品等については今後も維持管理・整備を行っていくことも重要であるが、備品等の更新も考えていく必要がある。
スキーリフト使用料補助事業	532	(延べ人数) 小学生 312人 327,600円 中学生 141人 204,450円 <u>計 453人 532,050円</u>	町内の小中学生に対して、スキーリフト1日券を5日分配布することにより、スキーに親しむ機会を増やし、楽しみながら健やかな体を育むことができたが、今後は小中学生のスキー参加者を増やすため、今まで興味を持っていない児童・生徒に対して関心を持ってもらえる工夫を行う必要がある。
虹貝多目的広場事業	5,162	多目的広場維持管理業務委託料 451,245円 支障木伐採業務委託料 1,296,000円 駐車場整備工事 1,036,800円 生徒会館改修工事 1,852,200円 <u>多目的広場備品 525,850円</u> 計 5,162,095円	整備を開始した年度で、供用開始が8月からだったこともあり、使用団体が2団体であった。 また使用会場も野球場のみなので、利用者を増やしていくために、陸上競技場・サッカー場を利用してもらう工夫が必要である。

IX 評価委員による点検・評価

【教育委員会会議について】

毎月1回の定例会議が開催され、概ね適切に議論がなされるとともに適宜報告がなされ、教育委員の間で共通の認識形成が図られている。会議では、中学校用道徳科教科用図書を選択や多目的広場管理規則の制定等について議論され、住民代表としての意見反映が図られている。また、小学校や中学校の入学式・運動会等の行事や学校訪問、研修会に、教育委員全員が参加していることも評価できる。

【学校教育の推進について】

「授業の充実」の項目については、小学校ではC Rテストで全学年において全国平均を上回る成果を上げ、中学校では「確かな学力を身に付ける」ことで、青森県学習状況調査のうち二教科において県の通過率を上回るなど、一定の成果を上げているが、引き続き「確かな学力」の向上に努めていただきたい。「道徳教育の充実」や「生徒指導の充実」等の項目でも、小学校中学校ともに大きな成果を上げている。今後、「学力の二極化」傾向への対応・さらなる学力向上等に向けて、小中連携を基盤に保護者や地域住民、関係機関等との連携・協働に努めていただきたい。

【社会教育の振興推進について】

「地域が支えるキャリア教育の充実」や「子どもの読書活動」、「家庭教育支援」、「地域活動の実践者の育成」、「学習成果を生かした社会参加活動の支援」、「社会教育施設の機能充実と活用の促進」、「社会教育関係団体等の活動の支援」といった項目で大きな成果を上げている。今後、「地域活動の活動者、コーディネーターの育成」や「地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援」等の項目では、住民一人一人の学習要求・社会参加の要求を基礎として取り組んでほしい。

【文化財の保護活用について】

「文化財の保護・保存」や、「伝統芸能・技術の継承」という項目では、いずれも大きな成果を上げている。今後、「文化財の公開・活用」という項目における取組を推進していく必要があるが、「文化財」を広く捉え、地域内の埋蔵文化財や生活文化等に関わる文化財の保存・継承についても積極的に取り組んでいただきたい。

【生涯スポーツの振興について】

「学校体育・スポーツの充実」や「健康教育の充実」という項目では、児童生徒の体育・健康教育・食育の振興において一定の成果を上げている。「スポーツの振興」では、この間全国大会開催の環境整備がされてきたことを踏まえ、今後は町民が豊かなスポーツライフの実現を図っていただきたい。また、食育・健康教育については、全町民を対象として充実を図っていただきたい。